

別記様式（第2条関係）

会 議 結 果 報 告 書

令和7年11月17日

会議の名称	令和7年度第1回志木市総合教育会議
開催日時	令和7年11月17日（月）13時30分～14時30分
開催場所	志木市役所 教育委員会会議室（中会議室2-1,2-2）
出席委員	志木市長 香川 武文（進行者） 志木市教育委員会教育長 柚木 博 志木市教育委員会教育長職務代理者 上野 幸子 志木市教育委員会委員 飯田 昌利 志木市教育委員会委員 可知 良之 志木市教育委員会委員 久保 大地 (計 6人)
欠席委員	なし (計 0人)
説明員職氏名	荒巻政策推進課主任 (計 1人)
議 題	志木市教育大綱の改正について
結 果	議題に沿って、意見交換を行った。
事務局職員	松井市長公室長、今野教育政策部長、佐野教育政策部理事兼学校教育課長、成田教育政策部参事兼教育総務課長、土崎教育政策部参事兼生涯学習課長、松田市長公室参事兼政策推進課長、矢野政策推進課主任、荒巻政策推進課主任、石田教育総務課主事
その他必要事項	

会議内容の記録（会議経過、結論等）

開会前に傍聴希望者の有無について確認を行った。

→傍聴希望者なし

1 開会

2 議題

志木市教育大綱の改正について

荒巻政策推進課主任より、教育大綱について説明した後、意見交換を行った。

（市長）

志木市教育大綱の構造として、基本理念と5つの柱があるが、根本となる理念であり、普遍的なものだと考える。一方でこの10年間を振り返ると、タブレット端末による教育の開始や、全中学校への校内支援ルームの設置、学校運営協議会の仕組みも始まるなど、教育を取り巻く環境は変化している。

そこで、現行の理念や5つの柱を軸としつつ、時代に合わせた要素を加えながら策定していくのはいかがか。ご意見をいただきたい。

（委員）

方針や理念は現行のままで良いと考える。

新たな要素としては、近年全国的な問題となっている「いじめ」「体罰」「虐待」などから子どもたちの人権を守るという視点、また、同じく問題となっている「不登校」について、子どもたちの教育を受ける権利の視点を盛り込みたい。

（委員）

方針や理念は普遍的で変わらないと考える。

柱の4について、多様性の観点を追加したい。自尊心を育む教育や、外国籍の児童や異学年などの多様な人と協力する中で、児童生徒が大事にされていると思えることが大切だと考える。

（市長）

子どもたちの人権、教育を受ける権利を守る必要がある。子どもたちが多様な人が生きる共生社会を生き抜く力を育むという視点を踏まえた、誰一人取り

残さない教育の要素を加えていく。

基本理念と5つの柱については、変えずに時代に合わせた要素を加える形式でよいか。

(委員)

よい。

(市長)

それでは柱の1から追加要素を考えていきたい。

(委員)

他者に対する想像力というエッセンスを入れたい。勉強、体力はもちろんだが、心の成長も入れ込みたい。

(市長)

自分と違う人間との関わり合いの中では認め合っていくことが大事である。先の委員より話のあった多様性の観点とも通じていく。

(委員)

現代の児童はあらゆる情報にあらゆる手段でアクセスする機会がある。情報の中には不確かなものもある中で、正しいものを見抜き、活用する力を身に付けてほしい。

また、小中一貫教育も本格的に開始していることから、多様な人々と協力し、違いを認め合うという視点も盛り込みたい。

(市長)

小中一貫教育の中で、多様な子どもたちと触れ合うので、自分との違いを認め合っていくという言葉は大事であると感じる。また、情報が溢れる社会で、正しい情報を見分け見抜く力は、新しい時代を生き抜く力に通ずると思う。

続いて、柱の2についてご意見を頂きたい。

(委員)

特別支援学級の児童が増えているので、障がいや特性によらず、学べる環境の視点を追加したい。また、小中一貫教育の取組により、「切れ目のない質のよい教育」というキーワードを入れたい。

(市長)

学びの多様化や不登校対策等、子どもたちに寄り添っていくためにも切れ目のない教育が重要である。

(教育長)

国の教育振興基本計画を参酌すると、基本理念にウェルビーイングが掲げられている。誰一人取り残さないという視点で、すべての子どもが包摂され、質の高い教育を受けることができるよう支援することが重要である。

(市長)

続いて、柱の3についてご意見を頂きたい。

(委員)

子どもは地域の宝であり、地域で子どもを育てるという視点は大切にしたい。

(委員)

学校主導で、地域を巻き込んだ防災キャンプを実施した。普段顔を合わせない先生や生徒と過ごすことで、信頼関係の醸成につながった。このように地域社会が学校へ参画していく取組は非常に重要だと感じた。このような市民の学校への参画の視点を組み込みたい。

(委員)

コミュニティスクールの視点を入れ込むのがよいと思う。これまでは1校ずつ活発に活動しているが、小中一貫となり、隣の小学校や中学校を含めてレベルを上げることが重要となってくる。

(委員)

地域に開かれた学校にしていくという観点で、子どもや地域の人々が安心できる居場所づくりという視点を入れ込みたい。

(市長)

地域の方が学校に来て、学校や児童生徒と触れ合い、学びあう場所であるということを伝えたい。また、相互の関係づくりをする中で、地域が学校の応援団となってもらえるとよい。

次に、柱の4についてご意見を頂きたい。

(委員)

5年間くらい宗岡の歴史という授業をやっている。教科書に載るような歴史ではないけれども、地域に根差した郷土史を知って誇りを持ってもらい、子どもたちに選ばれる志木市であってほしい。

(市長)

志木市には多くの文化財があるが、学校の先生や生徒に伝わっていない部分もあるのではないかなと思う。文化財をしっかりと活用しながら、歴史を紐解いて、郷土を再発見してもらえるとよいのではないかな。

(委員)

志木市には地元愛に溢れる方が多いと感じている。今の子どもたちにもうましく引き継がれていくとよいと思う。

(市長)

埋蔵文化財保管センターと郷土資料館の再整備も進んでいる。しっかりと活用して郷土への愛着に繋げていきたい。

次に、柱の5についてご意見を頂きたい。

(委員)

学校のプールを民間へ移行したのは非常によい取組だと考えている。民間の専門家の力を学校現場に組み込んでいく方向性を検討したい。

(市長)

志木市は市域が狭く大きな土地を確保することは困難であるが、引き続き、工夫を凝らし魅力的なスポーツ環境の整備や機会の創出を推進していく。

教育長の考えはいかがか。

(教育長)

生涯にわたってスポーツや文化に親しみ、取り組んでほしいとの思いから、部活動の地域連携の視点も追加してはいかがか。

(市長)

本日の会議のまとめを行いたい。理念、柱は普遍的であるとの考えから、現行のものを軸として改訂を行う。また、追加したい視点や要素としては、柱の1では、多様な人との共生、切れ目のない小中一貫教育、フェイクとファクト

を見抜く力、柱の２では、学びの多様化、質の高い教育、柱の３では地域の学校教育への参画、コミュニティスクール、柱の４では、郷土への誇り、文化財センターの活用、柱の５では、部活動の地域連携などの意見を頂戴した。

事務局において精査し、次回の総合教育会議で改正案を示していく。

3 閉会